

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
① 組織的なキャリア教育の取り組みの推進	① 保護者が興味を持って参加できる進路に関する講演会を年2回行う。	進路支援課	進路に関する講演会は、高等部の保護者の意識は高まってはきたが、まだ、小、中の保護者の意識が上がらないのが現状である。そのため、講演内容をみんなが興味を持てる内容にして、進路に対する意識を高めたい。	[成果指標] 講演内容を事前にアンケートし講師、講演内容を知らせ参加を促す。	進路に関する講演会（2回）の参加率が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C評価以下であれば場合、達成に向けて努力を促す。	現状に依じて講演回数を増やす。
	② 児童生徒の挨拶等の社会的マナーの向上を図る。	各学部	挨拶は、大切なマナーの一つであるが、朝の挨拶に関して教師に挨拶する児童生徒の割合が30%以下である。	[成果指標] 朝の挨拶で、挨拶と認められる声やジェスチャーができる児童生徒の割合で評価する。	朝の挨拶ができる児童生徒の割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C評価以下であれば場合、達成に向けて努力を促す。	年度末に割合で評価
② 地域のニーズに応じた教育相談の充実及び地域支援ネットワークの活用	① 専門相談に際して事前シートを活用し、小中高校において特別支援教育を推進する力の向上を図る。	自立支援課	専門相談の依頼は学校によって様々であるが、中には校内の特別支援教育の推進が相談員に委ねられるような所もある。事前シートの記入を依頼することで、相談内容を把握でき、校内の取り組みの見直しもできるのではないかと考えている。	[成果指標] 専門相談の依頼を受けた時点で事前シートの記入を依頼し、事前シートを活用した専門相談の回数で評価する。	事前シートを活用した専門相談の回数が A：10回以上 B：8回以上 C：6回以上 D：6回未満	C評価以下であれば原因を分析し、取り組みの見直しを図る。	年度末に回数で評価
	② 市町教育委員会と連携して、地域の小中高校職員に対し、特別支援教育への理解を推進するための研修会を実施する。	自立支援課	昨年度までの取り組みで、就学前のケースに対する地域支援は充実してきたので、これを小中学校に広げていく必要を感じている。今年度は研修会を開催し、教育委員会と連携を図っていききたい。	[成果指標] 教育委員会と連携して対外的研修会を開催し、その回数で評価する。	教育委員会と連携して開催した対外的研修会の回数が A：6回以上 B：5回 C：4回 D：4回未満	C評価以下であれば原因を分析し、取り組みの見直しを図る。	年度末に回数で評価

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
③ 特別支援教育の専門性と授業力を高める校内研究の推進と充実	① 外部講師を招いた研究授業を通して、課題を明らかにし、授業改善を図る。	学習支援課	昨年度は、1学期に各学部研究授業を行った。そこで指摘された課題について2学期以降に、工夫改善をめざして研究授業を行ったことが授業力向上につながった。今年度も指導主事等に授業をみてもらい、2回目、3回目と継続して研究授業を行い改善を図る必要がある。	[成果指標] 学部ごとに同じ教科あるいは領域で、指導主事等を招いた研究授業を行う。研究テーマに照らして課題を明らかにし、改善をめざし研究授業の回数で評価する。 自立支援課の外部専門家活用事業とタイアップしてより充実することが期待できる。	授業力向上のための研究授業を、各学部ごとに3回以上、総合計で A：10回以上 B：9回 C：8回 D：7回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取り組みの見直しをする。	年度末に回数で評価
	② 障害特性や個に応じた教材・教具の開発を図る。	学習支援課	昨年度、ほぼすべての教員が教材・教具を発表し、ホームページに掲載することができた。保護者へは学校便りでホームページについて周知した。引き続き取り組むことで指導の充実を図ることが大切である。	[成果指標] 教員が個人あるいは複数で、特性や個に応じた教材教具について情報交換することをめざし、発表した回数で評価する。	個人や複数で制作した教材・教具の発表回数が、総合計で A：25回以上 B：20回 C：17回 D：16回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取り組みの見直しをする。	年度末に回数で評価
④ 学校安全教育及び環境教育の推進	① 火災避難・地震避難、探索訓練、AED・救急法講習、交通安全、不審者対応等の防災訓練に外部講師を招聘し、最新の情報を得るとともに、防災能力の向上を図る。	生活支援課	前年度は外部講師の指導で十分な防災安全訓練を実施することができた。引き続き外部講師を招き最新の情報を得て、緊急の事態に対応する能力を高めていきたい。	[成果指標] 探索訓練以外は外部講師を依頼し指導を受けることをめざす。	全6回の内外部講師の指導を実施できた回数が A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	C評価以下であれば原因を分析し、取り組みの見直しを図る。	年度末に回数で評価
	② 環境教育の授業を校内で実践し一人一人のエコ意識を高め、環境意識の高揚を図る。	生活支援課	前年度は生徒会中心の広報活動がエコ活動の中心になっていた。今年度は全校で環境意識の向上をめざして環境教育の授業を行いエコ意識を深めていきたい。	[成果指標] 各部の発達段階に応じた授業実践を行うとともに、特色ある活動をめざす。	環境教育授業の実施できた合計回数が A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	C評価以下であれば原因を分析して取り組みの見直しを図る。	年度末に回数で評価